



議会だより

[題字] 寺田 飛駕さん (安宅行政区)

第136号

かわさき

令和元年11月1日発行
福岡県川崎町

どすこい!!
全国大会3位



▲川崎中学校相撲部の部員たち (P16)

9月 定例会議

決算認定.....

全国広報研修.....

5人の議員が登壇 ～一般質問～

2
6
8

川崎町議会ホームページ

川崎町議会 検索

QRコードからでもご覧になれます▶

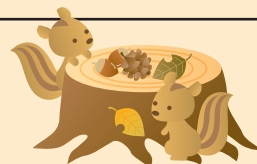
<http://www.gikai-kawasaki.com/>



今年度の議会だよりの表紙は、《大好き かわさき町》がテーマです。
みんなの大好きな川崎町に関する写真のご応募をお待ちしています。

川崎町役場 議会事務局 ご持参または郵送ください

[お問合わせ] 議会事務局 ☎72-3000 内線(318・319)



超高速ブロードバンド 環境整備などを認定

一般会計

決算総額は、歳入110億9952万円、歳出102億732万円で、翌年度へ繰り越すべき財源787万円を除き、実質収支額は8億8433万円の黒字決算となりました。

総務費

超高速ブロードバンドの整備。地域おこし協力隊の活動費。盆踊り大会。将棋大会等のイベント開催による町おこしなど。(継続事業を含む)

民生費

中学3年生までの医療費全額助成。障がい者の地域社会参加支援。総合福祉センター整備事業など。(継続事業を含む)

衛生費

総合健康診査の無料化。乳児定期健診や妊婦健診。乳児全戸訪問や保健指導の実施。環境パトロールによる不法投棄監視。小型合併浄化槽設置に対する補助など。(継続事業を含む)



農林水産費

中山間地域直接支払事業。荒廃した森林の整備。作業受託のための農機具購入など。(継続事業を含む)



商工費

城山子どもの森の整備。プレミアム商品券助成。創業セミナー開催。かわさきパン博などの観光関連事業推進など。(継続事業を含む)



土木費

道路側溝改良の維持補修。橋梁の長寿命化事業。7か所の道路改良事業。豊州団地・大峰団地建替え事業など。(継続事業を含む)



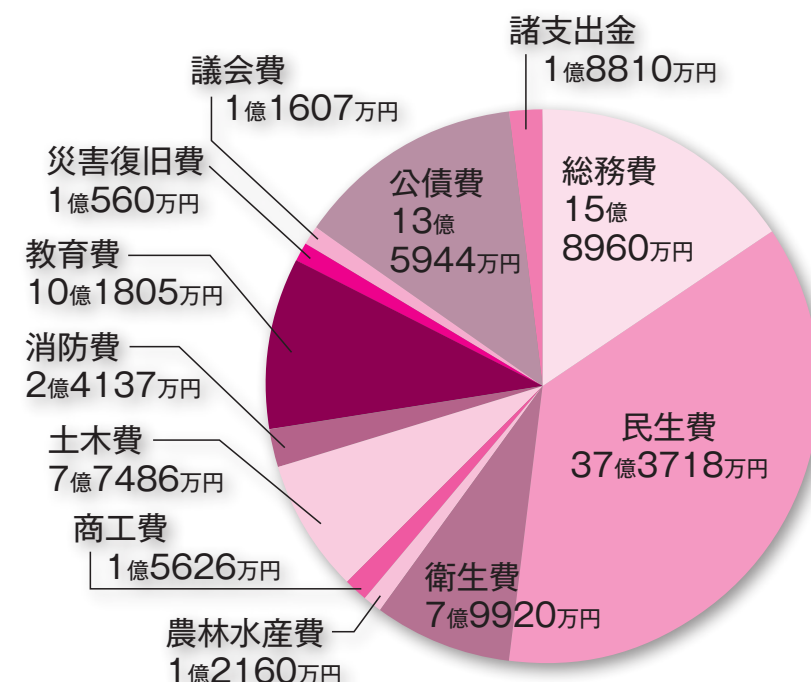
教育費

総合的学習の推進。防犯ブザー購入。統合中学校開校に向けての旧校舎解体。仮設校舎建設など。



災害復旧費

平成30年7月の豪雨により被災した箇所の災害復旧工事。



特別会計

学校給食センター特別会計

歳入1億6175万円、歳出1億6392万円で、実質収支は216万円の赤字でした。

住宅新築資金等貸付事業特別会計

歳入2183万円、歳出5億5753万円で、実質収支は5億3570万円の赤字でした。

国民健康保険事業勘定特別会計

歳入17億9804万円、歳出23億2300万円で、実質収支は5億2496万円の赤字でした。

後期高齢者医療特別会計

歳入2億1655万円、歳出2億1280万円で、実質収支は374万円の黒字でした。

令和元年度 第2号補正

幼児教育・保育の無償化など可決

歳入歳出4億9949万円増 総額121億7190万円となる

歳出の主なもの

- 田川広域水道企業団出資金…………… 1160万円
- 学校施設の維持管理に要する経費…………… 1057万円
- 埋蔵文化財発掘調査に要する経費…………… 749万円
- 川崎町運動公園の裏面復旧工事費…………… 196万円
- 幼児教育・保育の無償化に要する経費…………… 1245万円
- 財政調整基金積立金…………… 3億6850万円
- 過疎地域自立促進特別事業基金積立金…………… 4000万円

※金額については、千円以下を四捨五入しています。

平成29～30年度継続事業の精算報告

平成29年度から平成30年度までの2カ年の継続事業が完了したため、精算報告がありました。全体計画に対する実績額の比較は以下のとおりです。

事業名	計画	実績	計画と実績の差
超高速ブロードバンド環境整備事業	2億3500万円	2億2500万円	1000万円
総合福祉センター建替事業費補助金	4億1064万円	3億7716万円	3348万円
統合中学校基本・実施設計等業務委託	1億1151万円	1億973万円	178万円

株式会社川崎De・愛は昨年度に引き続き黒字決算



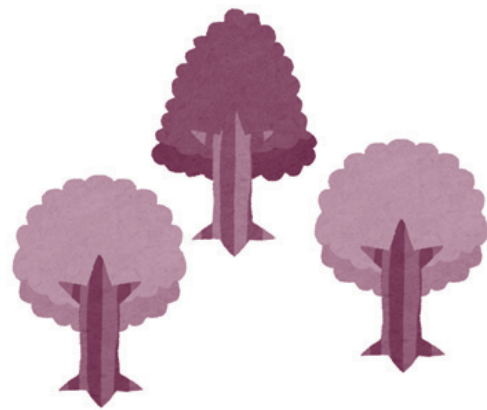
平成30年度の株式会社川崎De・愛の決算報告書が提出されました。

資産合計1406万8727円、負債合計966万5242円、純資産合計440万3485円となっています。

平成30年度は昨年度に引き続き295万円の黒字でした。

財産の処分

地上権設定契約の期間満了に伴う立木の処分を行うため、設定地の立木売り払い価格から立木の伐採、搬出、加工等に要する費用を控除した残額を町10分の7、契約の相手方10分の3とで分収するものです。



財産の取得

現在、事業課が所有している2tパッカー車は1台しかなく、草刈り後の収集など使用回数が多く対応に苦慮しているため、事業課保管の2tパッカー車をもう1台追加購入の売買契約をするものです。



条例

制定

温室効果ガス削減・災害防止のため森林を整備する —川崎町森林環境譲与税基金条例—

この条例は、温室効果ガス削減目標の達成や災害防止を目的とした森林整備に必要な財源を確保するため、森林環境税及び、森林環境譲与税が創設されたことに伴い国から譲与される森林環境税等を基金として積み立てるために制定するものです。

森林環境税については、5年後の令和6年度から国民1人に対し1000円が課税されます。

森林環境譲与税については、市町村の材木利用の促進や森林整備に対する支援を早期に行うため、各市町村に森林環境譲与税を令和元年から令和5年までの5年間譲与します。

川崎町独自の政策として、0歳から5歳の すべての子どもの、保育料・副食費を無料に

国の保育料無償化制度を拡大充実させるため、条例の廃止と一部改正を行いました。

監査室からのQ&A

Q.監査の使命と役割は

A.役場の仕事は大まかに言って、「条例と予算」を駆使して住民のためにいかに奉仕するかにあると思います。「条例」「予算」を作るのは町長(執行部)であり、町長が提案する「条例、予算」等を決定・承認するのが議会です。監査は、予算が適切に使われているかどうか、帳簿や契約書を確認しながら実務的に調査しています。

Q.議会は調査しないのか

A.議会推薦の監査が1名選任されており、事務補助を議会事務局職員がしています。監査結果は必ず議会に報告しますので、議会の監視機能の一部とも言えます。議会は行政の大局を、監査は隅々をみていく、そんな役割分担があります。

Q.監査の内容とは

A.毎月現金の出納事務が適正に行われているか、出納検査、最小経費で最大の効果が発揮されているか、みなさんの貴重な税金等が無駄遣いされていないか、事業が本来の目的を挙げているかを基本とした財務監査、その他決算審査等を行っています。

Q.監査員から一言

A.行政の仕組みがとても複雑になっていると感じます。町職員も監視役の議員も、行政の変化にしっかりとついて行く必要があります。もちろん私たち監査委員も行政の仕組みをきちんと理解し、常に公正不偏の態度を保持し、不適切なものについては、適切に指摘しなければなりません。行政の財源は住民の貴重な税金。無駄や不正が絶対にあってはなりません。

町民の皆様には税金や公共料金の未納、滞納がないよう、是非とも家計のやりくりをお願いしたいと思います。

識見監査委員:宗吉幸生 議選監査委員:松田孝行

委員会提出議案

新たな過疎対策法の制定に関する意見書の提出

過疎地域の生活環境の整備や産業の振興に大きな役割を果たしてきた「過疎地域対策緊急措置法」が令和3年末をもって失効するため、引き続き総合的な過疎対策を充実・強化を図るよう、**新たな過疎対策法**の制定を求める意見書を関係機関に提出するものです。

主要農産物種子法にかわる福岡県独自の条例制定を求める意見書の県知事への提出

主要農産物の優良な種子の安定供給や品質確保を支えてきた主要農産物種子法が、2018年4月1日付けで廃止されたことにより、広がっている農業者や消費者の不安を払拭するためにも、種子法にかわる**福岡県独自の条例**を制定されるよう、県に対し意見書を提出するものです。



全国町村議会 広報研修会に行ってきました



▲真剣に聞き入る委員たち

令和元年9月25日に東京都で行われた、全国町村議会広報研修会に議会だより編集特別委員会委員全員で参加してきました。

3名の講師より、手に取られ読まれる広報紙をつくるための、記事の書き方やレイアウトの見せ方、編集について学びました。

また昨年の町村議会広報コンクール上位2議会の広報紙を資料に用いて、評価のポイントや両議会の広報紙作成への取組などの講義を受けました。

この研修で学んだこと、コンクール上位2議会の真似できるところを取り込んで、「手に取り、読みたくなる議会だより」になるよう編集に励みます。

令和元年度 第4回川崎町議会(7月会議)

議案一覧と賛否結果

議案番号	案 件 名	賛 否 の 結 果													関連記事
		中 山	北 代	小 田	手 嶋 寒 根	川 根	手 嶋 康 田	松 永 月	繁 永 月	見 田	寺 田	千 葉	樋 口 原	松 岡	
議案第8号	川崎町教育委員会教育長の任命について(小峠英人)	(同意)簡易表決													

令和元年度 第5回川崎町議会(9月会議)

議案一覧と賛否結果

議案番号	案 件 名	賛 否 の 結 果													関連記事
		中山	北代	小田	手嶋寒根	川手嶋康	松田永	繁月	見田	寺葉	千原	樋口	松岡	大谷	
報告第9号	平成30年度川崎町一般会計継続費精算報告書について	報告のため採決はありませんでした													P4
報告第10号	株式会社De.愛の経営状況について	報告のため採決はありませんでした													P4
諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて(吉田砂織)	(適任)簡易表決													
議案第9号	川崎町教育委員会委員の任命について(岩丸麗子)	(同意)簡易表決													
議案第10号	川崎町監査委員の選任について(宗吉幸生)	(同意)簡易表決													
認定第1号	平成30年度川崎町一般会計歳入歳出決算認定について	(認定)簡易表決													P2
認定第2号	平成30年度川崎町学校給食センター特別会計歳入歳出決算認定について	(認定)簡易表決													P3
認定第3号	平成30年度川崎町住宅新築資金貸付事業特別会計歳入歳出決算認定について	(認定)簡易表決													P3
認定第4号	平成30年度川崎町国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算認定について	(認定)簡易表決													P3
認定第5号	平成30年度川崎町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	(認定)簡易表決													P3
認定第6号	平成30年度川崎町水道事業会計決算認定について	(認定)簡易表決													P3
議案第11号	川崎町森林環境譲与税基金条例の制定について	(可決)簡易表決													P5
議案第12号	財産の処分について	(可決)簡易表決													P4
議案第13号	川崎町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	(可決)簡易表決													P5
議案第14号	川崎町立同和保育所の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例について	(可決)簡易表決													P5
議案第15号	川崎町立幼稚園保育料徴収条例を廃止する条例について	(可決)簡易表決													P5
議案第16号	川崎町印鑑条例の一部を改正する条例について	(可決)簡易表決													
議案第17号	川崎町廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例の一部を改正する条例について	(可決)簡易表決													
議案第18号	財産の取得について	(可決)簡易表決													P4
議案第19号	令和元年度川崎町一般会計補正予算(第2号)について	(可決)簡易表決													P3

令和元年度 第6回川崎町議会(10月会議)

議案一覧と賛否結果

議案番号	案 件 名	賛 否 の 結 果												関連記事
		中 山	北 代	小 田	手 嶋 寒 根	川 嶋 根	松 康 田	繁 永 月	見 月 田	寺 田	千 葉	樋 原	松 口	
議案第20号	川崎町営住宅設置及び管理条例の一部を改正する条例について	(可決)簡易表決												

賛否表の表示は、○…賛成、●…反対、⑥…欠席、⑦…退席となっています。
 ※簡易表決とは…あらかじめ議員全員の賛成が見込まれる場合に、議長が賛成者の起立を求めず「異議ありませんか」と諮ることにより可否を問う採決方法です。
 ※賛否同数の場合は議長が可否を決します。

一般質問 よりよいまちづくりを めざして

一般質問とは、定例会議において、各議員が住民の代表として、行政全般にわたり
町当局の考え方や疑問をただすことです。

問
町政を



手嶋 真由美 議員

問 母子手帳アプリによる子育て支援を

答 導入に向け積極的に考える

議員 母子手帳アプリは、妊娠から
子育てまでを切れ目なくフ
ルサポートし、妊婦の不安や子育て
中のママの孤立化の解消を促しま
す。子育てしやすいまちづくりの
施策として母子手帳アプリによる
子育て支援を導入してみては。

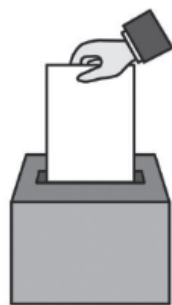
町長 子育て世代が抱える不安や
孤独感を解消することが出
来るのではと思います。今後導入
に向けて積極的に考えていきたい。

町長 現在、乳児の備蓄としては粉
ミルクと哺乳ボトルを常備
していますが災害時に水等が来な
いことも考えられるので、液体ミル
クの導入に向けて、前向きに検討し
ていきたい。



議員 年々増加する期日前投票は、
本町でも投票率の半分を占
めるようになりました。是非本町
でも宣誓書を記載した投票所入場
券への変更が必要ではないでしょ
うか。

総務課長 期日前投票に行きやすくす
るため、宣誓書の記載した投
票所入場券に変更は可能だと思
いますので、選挙管理委員会のほうで
検討していきたい。



その他 通学路の安全対策・虐
待ゼロを目指して・防災減災対
策について質問をさせて頂きま
した。

問 備蓄物資に液体ミルクを

答 導入に向け、前向きに検討

議員 防災センターの備蓄物資に
常温で保存ができ、災害時に
すぐ飲むことができる液体ミルク
を追加できないでしょうか。

問 投票所入場券に 宣誓書の記載を

答 選挙管理委員会で検討

議員 本年4月の統一選・7月の参
院選の投票率と期日前投票
の投票率を教えてください。

総務課長 4月21日執行の選挙の投票
率は75.09%、期日前投票は
37.0%、7月の参議院選挙の投票率は
40.57%、期日前投票は21.44%です。

問 De・愛の目的である農業振興への 効果実績と将来構想は

答 補助金を活用した圃場整備などに取り組む

議員 De・愛を設置した目的は、物
販の拠点をづくり、利便性を
高め、町外からの交流人口を増やす
といったことと、もう1つの大きな目
的は、本町の基幹産業である農業の
振興に寄与することでありました。

その後、経営管理の形態が変わっ
たが効果はどうだったのでしょうか。

農林振興課長 これまで株式会社川崎
De・愛が直売所を指定管
理していました。今年の4月から
出荷者組合が運営し、まだ日が浅く
すぐには変わったとは見受けられま
せん。ただ出荷者の思いとしては
自分たちの直売所なんだという思
いが強いということで今後に期待
しています。

議員 De・愛の設置直後と、これま
での数字の推移を生産者、農
業生産物の2つに分けて出して
いただきたい。

農林振興課長 平成16年の直後でありま
すが、レジを通した件数
で1日平均264人、年間が9万4787
件です。

直近の平成30年度は、1日平均
300人、年間にしまして、10万1378
件、レジを通してあります。

直売所の年間の販売額は、1億
1700万円で、農産物及び農産物加工
品は、7771万8千円で割合は66%。
その他、惣菜などで、3919万円とい
うことで、34%となっております。

議員 露地物を栽培している農家
の高齢化、後継者不足などが
あって、このままでは農業がこの町
の基幹産業となりうるには、少し数

字的にはさみしいのではないかと。

これからこの町の基幹産業とし
て売り出そうとしている農業に対
して、どういったてこ入れをするの
か。ブランド化あるいは将来構想
などを町長に尋ねます。

町長 本町の基幹産業の農業を推
進していくことは大変重要な
ことだと思っております。

それで、特産品とかブランド化に
ついて本町でリンゴが大変最近お
いしいということで、川崎町独自の
特産品だとわかるシールを貼る計
画も進めております。

また、マルボシ酢と連携して柚子
をつくっていききたいと考えており
ます。まだ構想の段階でございま
すが、遊休地を利用して柚子の木を
植え特産品にする、そういったこと
も計画、推進していきたいと思
っております。

また、いろんなところで補助金を
活かしながら、圃場の整備をした
り、いろんなところにアンテナを張
り売れるものをつくらなければな
らないと考えています。



問 町民の声を広く取り入 れるとりくみの進捗は

答 令和の時代、町も私も 先頭に立って頑張る

議員 このまちは沈みかかっている、
消滅するかもしれないと
言われています。

この4年、あるいはこの8年が私
は踏ん張りどころだと思っています。
つまり、ここで町長と執行部の皆さ
んと、そして住民の意識がシンクロ
(同調)をしてないと、効果が行き違
いになるのではないのでしょうか。

そのためには、町長が可能な限り
現場に出向いて行って、直接住民と
話をする必要があるのではないで
しょうか。

町長 現在、町は来年度に向けて、
第6次の総合計画、第2次
の総合戦略をスタッフを集めて検
討しており、他に二十歳以上の男女
1800人を対象にしてアンケート調
査を行ないました。

また、ワークショップを今後広報
誌などで参加者を募集して、その中
で町の現状や課題、住民の思いを把
握した中で、町民アンケートと併せ
て総合計画を作成していきたい。

私も執行部も川崎町のために1
つの目標に向かって一致団結して
いくことが、今からの川崎町をつ
くっていく一番大切なことだと認
識しております。

先頭に立って頑張っていきたい
と思ってます。



樋口 秀隆 議員



千葉 加代子 議員

問 子育て世代の支援を

答 財政的なこともあるが積極的に考える

議員 イベント時等におむつ換えや授乳ができる「赤ちゃん駅」という移動式テントが活用されています。多くの自治体が購入し、市町村等で行なわれるイベントに無料で貸し出しています。乳幼児を連れての参加は大変ですし、授乳室の確保も難しいと思うので、購入を検討していただきたい。本体価格は13万円から18万円くらいです。



町長 町が主催する場合は、直近の公共の部屋を空けて臨時的に授乳室に充てて対応しています。パン博では保健センター、かわさきフェスタは、コミセンで対応したい。テントの件も改めて考えていきたい。

議員 現在の看護休暇制度では、小・中学校に入学すると休暇の取得はできません。病中、病後時に自治体として何らかの手立ては出来ませんか。

町長 生後3ヶ月から小学校6年生までは、田川市病児病後児保育室「ひまわり」で対応。中学校以上になると受け入れ施設もない状況です。まずは、3歳から6歳までをもうすこし充実させたい。

議員 他の市町村では、一定の条件を満たした子育て世代に住宅取得支援として、借入金の利子の助成、中古住宅を習得し、定住する場合の購入費用の一部助成、子ども

がいる世帯が親元に住み替え同居、近住する場合の引越し費用の一部助成等を行なっています。子育て世代の人口増加をはかるために本町でも検討していただきたい。

町長 子育て世代の方に本町に多く住んでいただくということで、今年は保育料無料施策を打ち出しました。財政的なこともありますが積極的に考えてまいりたい。

問 手話言語条例の今後の対応は

答 周知に向けて講習会等の機会を増やす

議員 条例が制定されましたが、目だった動きが見られません。役場、学校等公共施設での今後の対応は。

町長 役場の福祉課に手話通訳者の常備配置、公的機関等における手続き等には手話通訳者が同行して支援を行なっています。今年度は、池尻小学校の放課後子ども教室で手話講習を行ないます。今後、手話言語条例の周知に向けて講習会などの機会がふえれば手話の普及につながると思います。

問 介護保険料の引き下げの対策は

答 住民の健康促進が保険料の抑制につながる

議員 本町は、Aグループで一番高い段階です。保険料の引き

下げには住民の意識改革が大切だと思いますが、そのための手立ては考えておられますか。

町長 住民に健康になってもらうのが一番だと思います。健康対策事業で取組をやっています。

議員 福岡県健康づくり県民会議では、運動習慣に向けた取組として、スロージョギング、ウォーキング、ケアトランポリンの3つを助成事業にしています。中でもケアトランポリンは、高齢者や障がい者向けの運動器具として安全性も高く高齢者の機能維持に活用されています。本町でも取り入れていただきたい。

町長 現在、参加することで取り組んでいます。



議員 誤嚥性肺炎予防の対策はとられていますか。他の市町村が実施している声楽の専門家の指導で、歌いながら誤嚥を予防する講座の開設を計画していただきたい。

町長 栄養口腔教室を開催しています。その中でそういったものも取り入れたらいいのではと考えられます。

*他に教師の働き方改革、不登校対策、学力低下について質問しました。

問 災害対策の強化を

答 特性を活かした地域の防災組織をつくる

議員 この2、3年北部九州では豪雨により甚大な被害が起こっています。

年々、予想を上回る大雨が降り、これらの自然災害による被害をいかに減らしていくのか、「防災力向上」にどのように取り組んでいくのが急務だと考えます。そこで2点伺います。

1点目は川崎町の全地区が「地域の実態を反映させた計画作り」の必要があるのではないか。地区が独自の「自主防災組織」を作り、「自分たちの地域は自分たちで守る」という取り組みを行い、地区の「防災マップ」を作り、きめ細やかな情報を皆で共有する事が重要だと思います。

地区のあらゆるリスクを共有し、備えることで「防災意識の向上」となり「共助」の要となっていくと考えます。

地区の防災計画作りに行政が関わっていくなどの全面的なサポートも必要です。

また避難訓練など町主導のもと、積極的に開催することも重要です。

2点目は避難が困難な人をどのように避難させるのか。8月の大雨で自宅前の川が急に増水し怖くなって役場に避難所の場所を聞いたご婦人がいました。

「コミュニティセンター」だと教

えてもらっても結局、その方は避難せず自宅に居ました。その方は足が不自由で一人では行けなかったのです。

町内にはこのような方たちが大勢おられます。ますます地域コミュニティを作っていく必要があると強く感じました。

共に備え、共に支え合う地域を。共助による防災力向上、安心安全な町作りをどのように考えておられるのか伺います。

町長 防災マップは見直しを行い、ガイドラインを反映させた利用しやすい防災マップの作成を今年度中に作り上げ、皆さんにお配りするように考えております。「防災計画」は各地域の特性に沿った防災計画を作るため、町も支援して参りたいと考えております。

避難が困難な人に対して災害が発生するおそれのある場所、災害が発生した場合の避難困難な人、要援護者の方々の避難誘導につきましても地域防災計画や、要援護者リストを基に速やかな対応ができるように関係機関と連携し、また地域の皆さんと協力して対応して参りたい。地域の防災意識を高めることが一番大切であり、地域の特性を活かした防災組織を作っていくことが大事ではないかと考えております。



川根 節生 議員

問 河川、町道の定期的な点検、整備を

答 状況に応じ、必要なところから進めていく

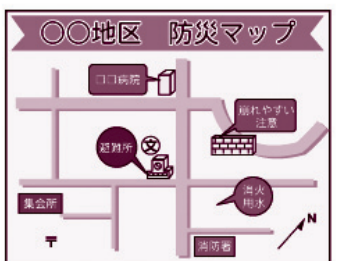
議員 近年河川の土砂や葎の繁茂が多く見受けられます。大雨が降り続くと氾濫の危険があります。

町道においても雑木や雑草、竹などがおい茂り大雨や大雪が降ると道を塞ぎ避難の際、支障となるおそれがあります。このような川や町道の点検、整備を定期的に行うべきだと思いますが、どのように考えておられるのか伺います。

町長 町内の管理河川は14か所ございます。常にサイクル的に浚渫作業をしなければ維持できないのが現実です。

完全に全てが行き届くような作業は大変難しいところですが、状況に応じて必要なところから進めていきたい。

町道につきましては、行き届いていない所も多くありますので随時、解消していきたいと考えております。





問 地方公共交通の広域連携の取組は

答 町民のために調査・勉強して対応していきたい

議員 住民が安全で快適で暮らすため、日々の移動手段はとても重要です。現在、各市町村で地域公共交通の取組を行っています。住民の利便性事業の効率や費用対効果を考えても、田川全体で地域公共交通を取り組む時期が来ていると思われます。広域での取組みについて町長にお尋ねします。

町長 各市町村での地域交通の取組は、住民の生活と常に密接に連携しており、特に高齢者を含むすべての交通弱者の方々におかれましては、大変重要な役割を果たしているものと思います。

公共交通の広域な取組については、現在助成を行っている西鉄バスやJR等の公共交通機関やタクシー業者への影響に対します説明とか、さらに関係する近隣市町村との協議連絡さまざまな課題がまだ残されています。常に利用者のニーズを把握し、近隣市町村の状況を踏まえて地域の特性に合った運行方法を考えていきたい。本町も広域的な取組が必要になってくると考えています。

議員 町内主要施設、またはこれらを経由し最寄の中心地へ移動できる公共交通サービスの向上が求められています。田川地区においては現在、一部事務組合による広域での取組みがされています、この公共交通こそ広域で取り組むのが一番望ましい形であると思っています。

いろいろと課題があるということですが、課題はあります。ありますけれども、田川地区はやはり田川を1つの

地域としての公共交通の取組を進めていくことが、一番望ましいと思っています。高齢者は待ってくれません。地域公共交通の維持改善は交通分野での課題解決にとどまらず、まちづくり・観光さらには健康・福祉・教育・環境などのさまざまな分野で大きな成果をもたらすものだと思います。町長の任期内に方向が見いだされることを切に願います。町の活性化には「田川広域での地域公共交通の取組み」が、喫緊の課題だと思います。町長のお考えを再度お尋ねします。

町長 確かに、田川地区の交通網が住民に充足されてないというのは、各市町村が常に抱えた課題だと認識しております。実施するときに抱える課題は各町村にあります。他、一部事務組合と同じように広域での取組、これが実施できたら住民の方にとって、生活しやすいものになると考えられますので、調査し勉強して対応していきたいと考えております。

問 公民館活動の活性化の取組は

答 生涯学習を推進する拠点として、人づくり地域づくりに努める

議員 公民館活動の活性化については、少子高齢化や人口減により隣組や地域のつながりは希薄化が進み、地域の行事や祭りにも支障をきたしている状態です。地域での助け合いにおいても、情報不足などから助けを受けるのが困難な状況になってい

るなど、どのようにして地域の活性化に取り組むのか教育長にお尋ねします。

教育長 近年の少子化・高齢化・高度情報化・都市化そして過疎化の進行等により、社会情勢は急激に変化しており、地域の担い手不足、人間関係の希薄化などが懸念されています。こうした地域的課題を踏まえ、本町においては新たに、川崎町自治公民館活動運営協議会を設立し中央公民館長を配置いたしました。今後はこの中央公民館長が主体となりまして、生涯学習を推進する拠点として位置づけ、「集う・学ぶ・結ぶ」ことを促し人づくり地域づくりに努めていきたいと考えています。

議員 地域コミュニティを再生させることが、今後、一番重要なことだと思います。地域の絆をさらに強くする活動を、誇りを持って推進すべきだと思います。公民館活動の原点に返り、さまざまな事業が展開できる計画施策を早急に取り組んでいただきたいと思います。もう少し詳しく取組みをお尋ねします。

社会教育課長 今年の6月27日に、川崎町自治公民館活動運営協議会を設立し、4小学校区に分かれて正副のブロック長をおき、正副ブロック長が連絡協議会となり、現在、中央公民館長を主体とした活動を準備段階として進めています。



もっと知りたい 委員会レポート

委員会の活動状況を報告します



議会では年4回の定例会の休会中は、それぞれの委員会に分かれ、所管の現地調査や机上審議をしています。



建設産業常任委員会

豪雨被災箇所のその後を調査

被災箇所はほぼ復旧工事完了

昨年7月の豪雨により被災した箇所の復旧状況を確認しました。復旧工事が完了しているところがほとんどで、残りの箇所も計画的に作業を進めているとの説明を受けました。

作業に励んでくださる方々に感謝申し上げるとともに、被害を受けました方々が安心して過ごせるよう、執行部に対しては早期復旧と今後同じような災害が起きないように危険箇所への対応を要望しました。



▲崩落した道路の復旧工事の様子

町内9か所の町営住宅と2か所の団地内公園を視察

町営住宅の現状と今後について確認

町営住宅については、築年数が50年以上経っている住宅が多数を占めており、老朽化が激しいことや、人口減少に伴う空き家の増加など、町営住宅が抱える課題の説明を受けました。現在は、長寿命化計画に基づき建て替え、除却をし、団地の集約化に取り組んでいるそうです。

また、団地内の公園も2か所確認しましたが、草が伸び、ゴミが散乱している状態でした。見

た目も悪く、危険でもあるので対処していただくよう言及しました。



▲除却予定の豊州団地

観光施設はどうなってる

5か所の観光施設を現地調査

光蓮寺、魚楽園、城山子どもの森公園、木城の大藤、黒木のケンボナシを現地調査しました。魚楽園は豪雨の影響で休園中のため、駐車場までの調査となりましたが、とても広くきれいに整備されており、観光バスなどの大型の車も楽に行き来ができる状態でした。城山子どもの森公園は、周囲の柵の安全性が足りないのではとの意見が出されました。

安全面に配慮して、小さなお子さんでも思い切り遊べる公園にしていきたいと提言しました。



▲県の有形文化財、光蓮寺輪蔵附経蔵の視察風景



民生文教常任委員会

町内小中学校に設置された仮設エアコンに関する調査

エアコンの温度基準の作成を要望

仮設エアコンの発電機については、排気の状態、騒音の状態などの現地確認を行いました。防音対策のため四方をベニア板で囲み、できるだけ音が小さくなるように対策が取られ、どの学校もできるだけ教室から離れた場所に設置されていました。

エアコンなどの設備や防音対策などは、学校によって差があるものではないことが確認できました。

また、別の日に机上審査を行い、設置期間については、9月に入ってから気象状況を見て、延長などの検討を考えているとのことでした。

発電機から発生している排煙の匂いが気になる学校があり、子どもたちに影響のないかという質問があり、環境に関する数値などを測るなどして、発電機等の使い方を検討していきたいとの回答でした。

卒業までの期間、中学校の3校で教室の環境に差が発生しないような方法を講じられるよう執行部に要望しました。

今後の冷暖房エアコンの稼働については、教育委員会で温度や湿度を目安とした基準を作成して、町内の学校で差が出ないようにしてもらいたいとの要望がありました。



▲発電機の状態を確認

町内保育園の現状調査

保育料無償化に向け保育士の環境改善を図る

保育士の定数が十分であることは理解しているが、児童相談所に行き、本町の子どもや障がい児などが関わっている現状を聞いて考えた

き、保育士などの数が足りていないと思われる。もう少し子どもたちに手厚い施策が打てるように真剣に検討して結果が出るようにしてほしいと要望したところ、その内容を再度調査して活用できるものがあれば、どんどん活用していきたいと考えているとのことでした。

保育料の無償化が全国的に始まると保育士不足が考えられるが、町としての対策を尋ねたところ、保育料の無料化となれば、やはり園児も増えると想定されるので、保育士の環境を整えることも大事であると考えているとのことでした。

統合中学校における通学路に関する調査

通学路については、歩道のある県道や町道、比較的広い道路及び交通量の少ない経路を選定し、また、小峠モータース前の三差路の道路に横断歩道と信号機の設置を警察署および県土木事務所へ要請しているとのことでした。

通学方法について、現在の川崎中学校の規定を基本に考えていて、また、学校からおおむね4キロ以上の生徒を対象として、ふれあいバスを活用したバス通学を検討し、ふれあいバスの活用が困難な地区についてはスクールバスの導入など、その他の方法を検討し、選定中とのことでした。

バス通学については、さまざまな質問があり、指定地域や自力で通学できない生徒についてなどさまざまなケースについて再度確認して検討してみますとのことでした。

また、教育委員会に対して、通学路についての拡幅、歩道のガードパイプ設置などの安全面の徹底、自転車通行レーンの整備、街灯の設置の徹底などについて、要望を行いました。



▲小峠モータース前の三差路



総務常任委員会

職員数と財政状況の推移を調査

優秀な職員を確保するための方策を提言

職員数は、昨年の事務改善により管理職を減らすなど、5年前と比べると13人減少していますが、同じ規模の他の町村と比べると職員数は多い状況です。

委員会からは、人口が減っていく中、職員数を削減しながら優秀な職員を確保するため、給与表の見直し、特別昇給制度及び人事評価制度の活用を提言いたしました。

返礼品の見直しによるふるさと納税の影響は

返礼品の割合引き下げにより納税額は一時的に減少

ふるさと納税が、返礼品として高額なものや地場産でないものを用意する市町村に集中し、本来の趣旨とは違ったものになったため、国は令和元年6月より①寄附に対する返礼品の割合を3割以下にする。②返礼品を地場産にする。という2つの基準を設けました。

川崎町も平成30年11月から寄附に対する返礼割合を45%から30%に変更することで、引き続きふるさと納税の特例控除の対象となりましたが、返礼品の割合を変更した際に、寄附金額が一時的に減少する影響が出ました。しかし、現在は寄附額も復調傾向にあります。

寄附金は防犯灯LED化等の財源として活用

これまでの4年間に集まった寄附金総額は4億7500万円で、そのうち寄附者に対する返礼品代や販売委託料として3億1800万円を支出しています。残金の1億5700万円につきましては、かがやけ川崎応援基金として積み立てるとともに、防犯灯LED化や災害用備蓄品購入、コミュニティバスの運行費に充てております。

防災行政無線に対する苦情とその対応策は

難聴地域には個別受信機の貸し出し等で対応

防災無線に対しては、聞こえにくい、何と言っているかわからないという苦情があれば、逆に音がうるさいという苦情があります。町としては大事な町からのお知らせであることを説明するとともに、個別受信機の貸し出しやスピーカーの

方向を調整するなどの対応をしています。

委員からは、性能の良いスピーカーの設置や、電柱を高くしてはという意見が出ましたが、担当課としては財政負担を抑えるため、個別受信機の貸し出しやフリーダイヤルサービスの活用を周知していきたいと回答がありました。

また、行政区単位で独自の放送ができる機能について、区長会を通じて各区長に周知するよう要請しています。

町内の危険箇所を確認

住民への危険箇所の周知を要請

現在、町が作成した防災マップには、約200箇所の危険箇所が掲載されていますが、このうち特に危険と判断する17カ所の現状について、説明を受けました。

委員会からは、災害発生時の要援護者への支援対策、防災マップの危険箇所や避難場所の各家庭への周知徹底を要請しました。

また、7月25日の委員会では、昨年の集中豪雨による災害の復旧状況と、本年7月21日の大雨による災害箇所の現地調査を行いました。



▲今年度に改訂予定の防災マップ



議会の傍聴においでください

次回定例会予定

- ◎12月 3日…本会議(初日)
- ◎12月 6日…本会議(中日)
- ◎12月11日…本会議(一般質問)
- ◎12月12日…本会議(最終日)

今回の
主人公

川崎中学校3年
こばやかわりゅうしん
小早川 竜伸くん

Q1. 全国大会3位になったの感想

嬉しく思います、全国制覇を目指していたので悔しい思いもあります。

Q2. 相撲を通して学んだことは？

礼儀や努力、やり続ける持久力を学びました。

Q3. これから相撲を始めたい子どもたちへ一言

小さい子でも大きい子でも誰でも、体も心も強くなると思うので頑張ってください。

Q4. これからの目標は？

高校に入っても相撲を続け、監督やコーチの教えを忘れずに、高校では全国制覇に向けて頑張っていきます。



追跡レポート

ご存知ですか？

平成29年度6月議会
手嶋真由美議員の一般質問

町民のみなさまが、わかりやすいように
町内13か所の指定緊急避難所・
指定避難所の看板設置を!!

平成31年3月 設置完了致しました。



編集 後記

令和元年の秋、27人目の日本人ノーベル賞受賞者が誕生しました。

ノートパソコンやスマートフォン、デジタルビデオカメラなど、持ち運びの出来るIT機器が身の回りにあふれる時代。ノーベル化学賞を受賞した旭化成の吉野彰名誉フェローの功績は身近で、多くの人がその恩恵にあずかっています。リチウムイオン電池の開発がなければこれらの機器は存在しなかったでしょう。近年では電気自動車にも用途が広がり、地球環境問題を解決する答えの一つともいえると思います。「人類に最大の貢献をもたらした人々」という賞の目的にふさわしく、心から拍手を送りましょう。行楽の秋、実りの秋、食欲の秋、秋はイベントの目白押しです、みなさん出かけましょう。

「議会だより編集特別委員会」						議長	発行責任者
委員	委員	委員	委員	副委員長	委員	櫻井 英夫	
手嶋 真由美	寺田 節	川根 康生	手嶋 徳	小嶋 卓	中山 信和		